

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～生産回復の持続性や日本経済とアジア経済との関係を様々な角度から検証しています。

2010/2/1 「適正在庫水準からみた増産圧力の持続性～2010年半ば頃まで増産圧力が残る可能性～」

2010/1/14 「日本経済を支えるアジア向け輸出と直接投資～日本にとって最大の市場となったアジア～」
掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～注目される世界の金融市場動向を分析し先行きを見通します。

2010/2/15 「Market Watching Weekly Market Report」（毎週月曜日配信）

掲載カテゴリ：鳥峰義清の「マーケットウォッチング」

～日本経済の課題を最新の日銀短観と日銀のスタンスから読み解きます。

2010/1/29 「『二番底』懸念は何を問題にしたのか～見えない先行きに怯える自信喪失の心理～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～日本経済に大きな影響を与えてきたドル円相場変動の背景を経済の動きとともにまとめました。

2010/1/25 「プラザ合意以降のドル円相場の変動～今年度末は企業による海外資金還流が波乱要因。その後は米経済の動向が焦点～」

掲載カテゴリ：永濱利廣の「エコノミック・フォーカス」

～注目の大きい欧米経済ほか海外経済の動向を分析します。

2010/1/27 「ギリシャ：“ユーロ離脱”という選択肢 ～ギリシャはユーロの恩恵を捨てられるか？～」

2010/1/25 「韓国経済事情：景気は足踏みするも失速の懸念は低い～設備投資意欲は依然高く、世界経済の回復に歩を合わせた復調が続く～」

掲載カテゴリ：桂畑誠治・田中理の「欧米経済を探る」、「アジア・新興諸国経済」

編集後記

金融市場の混乱、世界的な景気後退から底打ちへ。この一年経済をめぐる変化はめまぐるしい。昨年三月には、まだ金融危機の嵐が激しく吹き荒れていた。ちょうど一年前の編集後記では、企業の業績が落ち込むなかで、働く場での人と人との信頼感が薄れていく不安のことを書いた。

ここ二、三年非正規雇用問題がクローズアップされ、新政権は派遣労働の規制を大幅に強化する方針を打ち出した。セーフティネットを強化し労働市場のゆがみを補正するのは政府の役割だが、それだけで所得を増やすことは出来ない。なぜ雇用が増えず賃金が上がりにくいのか。なぜデフレから脱却できないのか。

今月号に掲載した「円高発、物価下落の可能性（有馬副主任エコノミスト）」では円高の影響が輸出関連産業などを経由して、国内の物価や賃金に押し下げ圧力として働いた可能性を分析している。グローバルな経済環境のなかで、デフレから脱却する青写真を描かないと、有効な策が打てないことが示唆される。確かに円高のメリットもある。しかし、日本経済にとってのプラス、マイナスの算盤を弾くためには、たとえば為替水準の前提をどう置くか、ということも無視できないポイントである。 (H. U)